昔も今も　～佐野鼎研究会に参加して　…　雑感～

松井 石根

１、参加の経緯

佐野鼎研究会世話人の内藤徹雄氏の紹介で佐野鼎研究会の存在を知り、2017 年 8 月 26 日に初めて参加させて頂くことになった。出来る限り研究会に参加させていただき大勢の研究会の皆様とお知り合いになり大変有り難く思っている。私は高等学校は長野県の上田高校であり、開成高校とのご縁はこれまで全然なかった身であるが、この会に参加させていただき、ご縁があったのだなと思うようになった。

その切っ掛けは母校である上田高校関東同窓会が 2013 年に郷里の先人である赤松小三郎研究会を発足させたことにある。赤松小三郎について自分の知識は全くなかった。この会に参加して上田市の資料編纂館が発刊している赤松関係書や上田高校の後輩の関良基氏の名著「赤松小三郎ともう一つの明治維新」により赤松小三郎の全体像を新たに学んだというのが実態である。この赤松小三郎と同時代に佐野鼎がおり、下曽根塾の塾頭等同じ道を歩み維新後に現在の開成高校の前身の学校を創ったことを知った。

その後まもなく友人である内藤徹雄氏からの佐野鼎研究会へのお誘いがあり、佐野鼎と赤松小三郎、開成高等学校と上田高等学校という関係の今昔の縁しをご縁と思い研究会に参加させていただいている。また佐野鼎研究会と赤松小三郎研究会の橋渡しをさせていただいたことも光栄に思っている。

２、参加して

佐野鼎研究会に参加する以前には佐野鼎についての知識は皆無であった。学んだこともなく、私の歴史の中には存在しない人物でもあった。教科書や巷の歴史書に登場する人物については学ぶ機会も多々有り、自分の歴史観の中に抵抗無く受け入れられるのであるが、佐野鼎と赤松小三郎のような、何かの切っ掛けで接する機会がないと歴史に埋もれてしまう偉人が数多くいるのだろう。顕在している偉人よりもずっと多いのではないかと思うと歴史の奥深さをつくづくと思う。その点、佐野鼎研究会に参加して会員各員の多方面からの研究成果に接し、新たな興味を覚え、関連する書籍等を積極的に購入する動機にもなった。興味を持って当たっていくと関係する書籍類は結構ある。

特に柳原三佳氏の多方面にわたる行動や著作には敬意を表するとともに多大な啓発を受けたことに感謝したい。

3、志はひとつ

佐野鼎と赤松小三郎の経歴は大筋同じ道を歩んだと思う。大きな違いは洋行の体験であると思う。この洋行の体験の違いが具体的にどの様にその後に影響したか比較分析したことはないし、漠然と書物で感じる程度であるが、感覚的にそう思うのである。それでも両人とも軍人という関係において指導的立場でその力を遺憾なく発揮したことは明らかであり、大勢の後継者を育成した。活動の場は異なるが志は同じである。

4、150年の教育の基礎を築く

佐野鼎は1871年に共立学校を設立した。その後1895年校名を開成にし、今日に及ぶ150年の校史の基礎を築いた。多くの英才が全国から集まり、育ち、社会のリーダーとなった。歴史に「もし」は無いが、もし赤松小三郎が暗殺されなかったら佐野鼎の様な教育の世界に身を投じたであろうか。幕末のほぼ同じ時期に同じ道を歩んだ佐野鼎と赤松小三郎、下曽根塾ならず新たな学舎を東京に創り、全国の精鋭を教育する学者とし共に競っていたであろうか。赤松の学校はどの様な学校に発展していただろうか。開成高校の様な学校が出来ていたかどうかは疑わしいが上田高校出身者としては赤松小三郎にもそういう学校の創業者になってもらいたかったとふと思う。

経営者の責務として心掛けなければならない事は一般的には（1）経営の継続（事業の完成）（2）新たな事業の創造（3）人材育成であると思う。

人材育成については現場における教育的指導が最も重要であるが、一方青年を対象に将来の人材育成の基礎となる学校教育も重要な役割を担ってきた。佐野鼎はその基礎を幕末から明治の変動期に創立したのである。その後の輝かしい歴史は開成学園創立140年記念誌「ペンと剣の旗の下で」を読んで認識を新たにした。

5、昔も今も

昔も今も、教育の重要性は語り尽くせない。教育は人間の育成であり、人間としての人格形成の上にその時代時代を見据えた教育の展開が図られてきた。特に江戸時代までは人道が教育の基本であり、明治以降は和魂洋才の下、知識教育が主体となり今日まで続いている。今後の方向としては知識がAIに取って変わられる時代になる。知識は重要であるがAIの知識を適切に使いこなし、自然との共生の下、人類の未来を構築していくには人の豊かな心の教育が今以上に必要である。相手を慈しみ自分を大切にする豊かな心の教育である。昔も今も、教育の基本は人である。人々は歴史を通じ、先人の生き様に触れ、啓発され、発奮して歴史を繋ぎ、歴史を創ってきた。昔も今も人の心の思いは生きている。

佐野鼎研究会ではその事を多くの事例で教えてくれた。感謝したい。

縁ありて　学ぶ偉人の　側面を
我が身に照らして　遠き道歩む

松井 石根（まつい　いわね）
ＩＳＭ株式会社代表取締役　一般社団法人松実教育総合研究所代表理事　松実高等学園理事長
東京小諸会会長
過去の主な経歴：国内生命保険会社勤務後、アメリカ、オランダ、スウェーデンの生命保険会社の役員、国内損害保険会社コンサルタントを経て、松実高等学園を設立　日本ＰＴＡ全国協議会第27代会長　中央教育審議会委員等

『赤松小三郎ともう一つの
明治維新』関良基著

赤松小三郎（あかまつ こさぶろう）
1831－1867　幕末の洋式兵法家。
天保)2年生まれ。信濃上田藩士。内田五観、勝海舟に師事し、長崎の海軍伝習所で学ぶ。京都で鹿児島藩士らに英国式歩兵術を教え、公武合体論を主張した。上田への帰藩直前の慶応3年9月京都で暗殺された。享年37歳。「英国歩兵練法」「新銃射放論」を邦訳。